

東京2020オリンピック聖火リレー出発式 笑顔でつなぐ 希望の火

3月29日、晴天のもと開催した出発式と、聖火リレーの様子をご紹介します



開催できることに感謝
出発式で平山町長は、「芭蕉も歩いたとされる奥州街道をリレーすることで、里山の風土の魅力発信につながれたら」と歓迎のあいさつを述べました。



那須中央中吹奏楽部の皆さん

期待高まる演奏
開場と同時に那須中央中吹奏楽部の皆さんが「紅蓮華」「夜に駆ける」などを演奏し、来場者を出迎えました。

新型コロナウイルスの影響で1年延期となっていた東京2020オリンピック聖火リレーが3月28日、福島県に続いて栃木県でスタートしました。
当町では29日に芦野遊行庵で、県内での2日目のスタートを飾る出発式を開催しました。

晴れやかな笑顔
続いて、数々の全国大会や国際大会で優勝した実績を持つ幸福の科学学園中学校・高等学校チアダンス部の皆さんが演技を披露し、



上町はやし保存会の皆さん



下町祭典保存会の皆さん

響く力強い音色
ステージでは、伊王野下町祭典保存会の皆さんが「旧四丁目囃子」を、上町はやし保存会の皆さんが「江戸馬鹿囃子」を披露し、会場を沸かせました。

区間最終ランナーは、町出身でスノーボード選手として活躍する小鍛冶渚砂さんが務め、沿道からの声援に笑顔で応えました。



益子卓郎さん

第1走者は、お笑いコンビU字工事の益子卓郎さん（大田原市出身）が務めました。

いよいよスタート
芦野遊行庵から東陽小までの2.8キロを12人の聖火ランナーがつなぎます。



幸福の科学学園チアダンス部の皆さん

出発式に華を添えました。

「聖火リレー栃木県コースとして那須町では黒木より小島を経て国道4号線を（中略）9月30日午後1時頃通過することになっております。」

当時の聖火リレーは、那須町から小山市までの57区間を正走者57人、随走者などを含めると1,311人が参加して実施する予定だとしています。掲載記事の一部をご紹介します。

57年前の聖火リレー
前回東京大会開催前の、昭和39年4月15日発行の町広報紙に「東京大会にあと170日」と題し、聖火リレーの告知記事が掲載されていました。

番外編 町広報紙で振り返る
群馬県へ引き継がれました。

聖火は、那須町・さくら市・那須塩原市・益子町・壬生町・日光市・鹿沼市・宇都宮市の8市町、約19・1キロの道のりをリレーし、群馬県へ引き継がれました。



小鍛冶渚砂さん